

□安倍氏と平泉文化

胆沢城と平泉の柳之御所は発掘調査で非常に良く実態が分かっているが、その間の時期がどうだったというのが分からない。その点で鳥海柵は、前九年合戦における安倍氏十二柵の先鞭の地であるとともに、11世紀の時代を究明する大事な遺跡である。

鳥海柵が藤原氏の祖霊の地であるというのは、安倍宗任の城であったといわれているから。宗任の娘が、二代藤原基衡の妻になり、三代藤原秀衡を生んだ。

初代清衡も安倍の血を引いた人。なぜ清衡が平泉をあのようにならせたか。戦の中で身に付けた知恵がなかったら、平泉文化ができたかどうか。私は疑問だ。

なぜ、この辺境の、田舎といわれるこの地に、

11世紀の謎解く祖霊の地

鳥海柵の発掘調査で、一番大きな建物跡が出土したのは縦街道古墳群のエリア。なぜあの場所に大きな建物を造ったのか。

ただ土中に土器が埋められてしまえば何もなくなってしまうが、古墳という高塚にすることで皆がお参りに来る。つまり、縦街道に多くの古墳を造ったのは、一族がまとまるための拠所としたからだ。

この辺りの古代の人たちは、在来の人たちと新しい移民に分けられると考えている。在来の人たちは古墳を築いた人たち。一方移民は、胆沢城を造る時に連れて来られたという農民たち。この人たちにとって古墳は怖い。恐らく壊すこともしたんじゃないかと私は思っている。

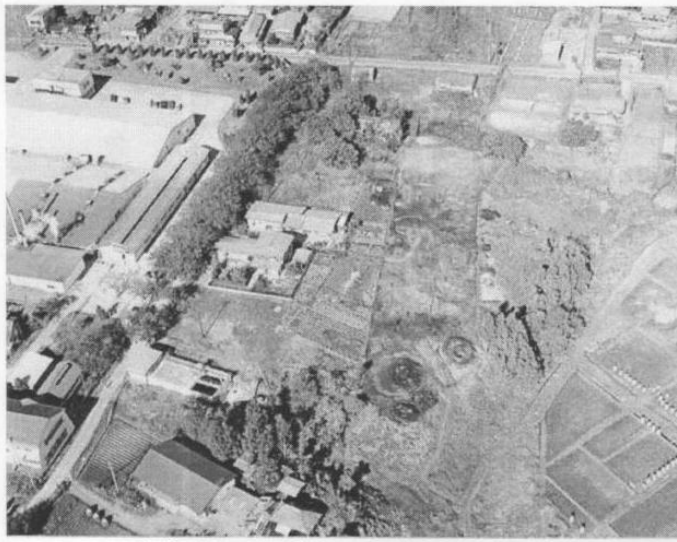
アテルイは田村麻呂と戦ったが、縦街道古墳群の人たちはどうしたかよ

よかつたんだと思う。私は今回の発掘で出土した、五保と書かれた土師器や唾壺、香炉のふたが出てきた。堅穴住居跡は在来系の人のものでないかと考えている。

頼良が、役人として自分の館を構えることになった時、どこに造ろうとしたか。それはやはり、先祖の御霊のある縦街道古墳群を拠点にしたのではないか。



鳥海柵の東部に位置する縦街道古墳群



ならば、一族が生きていくすべとして何が一番いいか。これはやっぱり知略。要するに「知恵」であり、当時では仏教を奨励すること、日本の国教を奨励することだった。それからもう一つ、天皇をあがめるということ。天皇をあがめるということとは国を守るということ。これは清衡自身が「中尊寺供養願文」で述べていることである。この二つを徹底し、平泉をつくった。

鳥海柵を知る

— 町民大学2013 シンポジウムより —

金ヶ崎の国指定史跡

11

本堂 寿一氏 (前北上市博物館長)

総括・鳥海柵跡について ①

鳥海柵の発掘調査で、一番大きな建物跡が出土したのは縦街道古墳群のエリア。なぜあの場所に大きな建物を造ったのか。

ただ土中に土器が埋められてしまえば何もなくなってしまうが、古墳という高塚にすることで皆がお参りに来る。つまり、縦街道に多くの古墳を造ったのは、一族がまとまるための拠所としたからだ。

この辺りの古代の人たちは、在来の人たちと新しい移民に分けられると考えている。在来の人たちは古墳を築いた人たち。一方移民は、胆沢城を造る時に連れて来られたという農民たち。この人たちにとって古墳は怖い。恐らく壊すこともしたんじゃないかと私は思っている。

アテルイは田村麻呂と戦ったが、縦街道古墳群の人たちはどうしたかよ

よかつたんだと思う。私は今回の発掘で出土した、五保と書かれた土師器や唾壺、香炉のふたが出てきた。堅穴住居跡は在来系の人のものでないかと考えている。

頼良が、役人として自分の館を構えることになった時、どこに造ろうとしたか。それはやはり、先祖の御霊のある縦街道古墳群を拠点にしたのではないか。

鳥海区域西部から出土した香炉のふたと緑釉陶器唾壺、墨書土器「五保」。9月まで金ヶ崎要害歴史館に展示されている

